



子どもたちの「守・破・離」を考える

校長 野邊 盛雅

早いもので、今年度も残すところ一月となりました。特に3年生は卒業式を間近に控え、様々な思い出が胸を去来している頃と思います。小学校1年から今までの9年間は保護者が子供に教育を受けさせなければならない「義務の期間」でした。ところが、これからの高校や専門学校等の上級学校への進学は、まさに自分で進路選択して道を切り拓いていく新しいステージとなります。自主自立の気概を持って今まで培った力を土台とし、大きく活躍してくれることを願います。

さて、タイトルの「守・破・離」は、元々は、武道の用語だそうです。私の父は、柔道家でしたので、小さい頃に良く聞かされたものでしたが、簡単に言うと「守」とは武術の基礎基本を学ぶこと、「破」はその基本をさらに発展させて応用技を取得し、創意工夫を重ねること、最後の「離」は、自分で独立独歩して新しい流派を興すということだそうです。

良く考えるとこの理論はそのまま学校や家庭教育にも適応できると思います。子どもたちの「知・徳・体」の取得には、生きる力の土台となる基礎基本を学ぶことで自身の土台とし、自ら創意工夫を重ね、応用力や対応力を高め、自分なりの生きるスタイルを獲得し、道を切り拓く過程が大事ではないのかなと考えます。学校教育しかりですが、ご家庭においても、子どもに人生の道標を示し、親の助けを借りなくても独歩できるような手立てが必要です。将来を見据えて子供の姿をイメージするに当たり、この「守・破・離」の観点を持つことは大事なことでないかと痛感します。梅の花も香り、山桜も咲き始めた今日この頃です。残り1か月を思い出に残る時期とできたら幸いです。

1年生 職業講話

2月9日(金)に曾於市役所財部支所長の桜木孝一さんによる職業講話がありました。財部町の現状や課題、市役所の具体的な部署や役割について詳しくお話していただきました。また、日々努力することの大切さや、助けてくれる周りの人たちへの感謝の気持ちを持つことの大切さについても触れ、1年生には貴重な経験談となりました。



能登半島地震 募金活動



生徒会が中心となって19日(月)～22日(木)の4日間に渡り、能登半島地震で被災した方々への募金活動を行いました。集まった募金は¥5,505-でした。集まった募金は、社会福祉協議会を通じて被災地へ送られます。また、生徒会がアイデアを出し、被災した方々への応援メッセージが書かれた旗を作成中です。生徒のみなさんがメッセージを書いた小さな布を縫い合わせて一つの旗になる予定です。

生徒の活躍

吉井淳二記念大賞展 結果

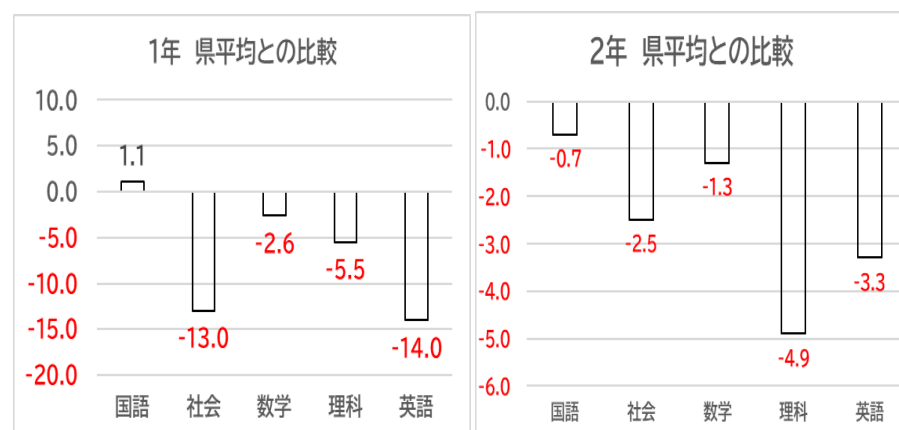
議長賞	3年	東丸 杏奈
優秀賞	2年	山村 美来
優秀賞	2年	** **
奨励賞	2年	石田 七海
特選	2年	井之上 菫
入選	3年	東迫 美優
入選	2年	井上 涼那
入選	2年	小原 葉凜
入選	2年	奥 結奏
入選	1年	大川原 幸助
入選	1年	河路 紗那

南九州美術展 結果

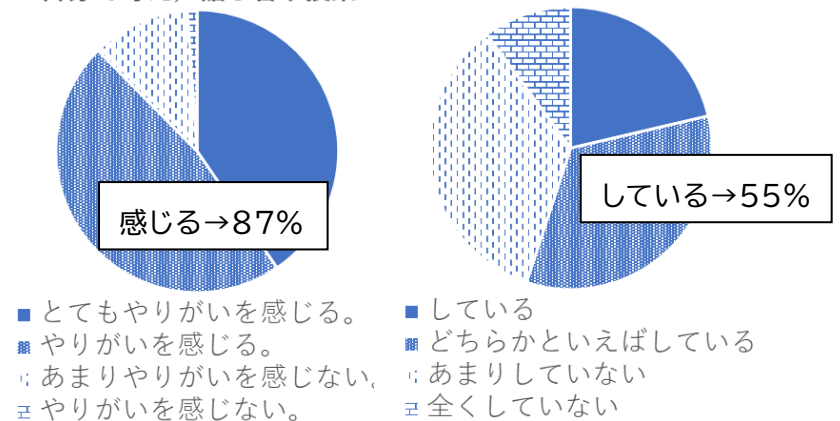
特選	3年	松野下 和奏
入選	3年	石神 葉琉
入選	3年	福原 彩
入選	2年	小松 華奈
入選	1年	宮下 愛音

「新日公いろは歌」短歌大会
佳作 2年 桂原 愛苺

令和5年度鹿児島学習定着度調査 結果



自分で考え、話し合う授業 自分で計画を立てて勉強していますか



12月・1月に1・2年生を対象に行われた鹿児島学習定着度調査の結果をお知らせします。各学年、各教科で結果を受けて、授業では定着が不十分だったところの復習や1年間の復習を進めているところ。また、自分で考え、話し合う授業にやりがいを感じている生徒が多いことから、今後一層「協働的な学び」ができる授業づくりを進めていくとともに、基礎的な知識・技能が定着していくための取組も充実させていきます。

家庭学習の状況を見てみると、自分で計画を立てて勉強していると答えた生徒が約55%です。宅習・英宅等日々の課題はありますが、課題以外の教科の予習・復習を家庭で自主的に取り組んでいる生徒を増やせるように、働きかけていきます。御家庭でも御協力をよろしくお願いいたします。